

【選択領域】試験一括型

主な受講対象者	小・中(英語)・高(英語)	履修対象職種	教諭
開設講習名	【選択】児童・生徒にとってわかりやすい英語の語彙・文法指導について		
開設日	令和3年(2021年)8月19日(木)		
担当講師	橋本 美喜男(教育学部准教授)		
履修認定試験<試験一括型> (4限終了後に試験を実施します。)		試験時に配付資料・ノートの参照：可 (タブレット端末の参照は不可)	
<p>担当講師からの連絡事項等</p> <p>本講習では、「認知言語学」と呼ばれる領域を扱う。予備知識は必要ありませんが、開拓社から出版されている『イメージで捉える感覚英文法 認知文法を参照した英語学習法』を前もって読んでおくと、理解がより深まります。</p>			
<p>1 限 (9:00~ 10:15)</p>	<p>“Foreign languages are too hard for most people to learn well in classroom in the time available.” (Swan 2005: 387) 「利用可能な授業時間の中で、外国語を学習することは大変難しい」ということが言われています。</p> <p>本講習では、このような現実を踏まえ、以下の2点を踏まえて考察します。</p> <p>1 限られた時間の中で、いかに効果的な英語教育を行うのか。</p> <p>2 効果的な英語教育における「文法」の役割とは何か。</p> <p>1限目は、英語教育の目的と目標について考察するとともに、以下の3点について考えます。</p>		
<p>2 限 (10:30~ 11:45)</p>	<p>A 「英語力」とは何を意味しているのか。</p> <p>B 英語を学ぶ動機付けを与えることができる学習とは。</p> <p>C 認知言語学の考え方を英語教育に導入する意義について。</p> <p>2限目は、英語の語順を取り上げて、以下の2点を踏まえて考察する。</p> <p>A 出来事を言語化する過程において日本語と英語には違いがあるが、その違いを考慮に入れず、日本語の表現形式をそのまま英語にしてしまう問題。</p> <p>(例：ここはどこですか？ ×Where is here? ○Where am I?)</p>		
<p>3 限 (12:45~ 14:00)</p>	<p>B 主語、間接目的語、直接目的語等の概念をどのようにして理解させるか。</p> <p>この考察を通して、日本語と英語における出来事を概念化の違いを示し、いかに児童・生徒の知的好奇心に訴えることができるか考えたいと思います。</p> <p>3限目は、英語の名詞と日本語の名詞を取り上げ、同じ名詞でありながら、日本語にはない概念的区別(可算名詞と不可算名詞)を行う英語の名詞の振る舞いをどのように分かりやすく児童・生徒に説明したら良いのか、考えます。</p>		
<p>4 限 (14:15~ 15:30)</p>	<p>4限目は、英語の動詞を主に取り上げ、さらに時間が許せば進行形、受動態、完了形などにも触れ、以下の2点を踏まえながら考察します。</p> <p>A 例えば、受動態と完了形を別々の文法項目として取り上げるのではなく、有機的に関連づけて教えることはできないか。</p> <p>B 有機的に関連づける方策の一つとして、単語だけではなく文法形式(-ing形、-ed形、原形など)にも意味があるという考え方を示します。</p> <p>結論としては、気づきを与えることができる文法説明と、既習項目との有機的関連づけを図ることで、より効果的に学習が進むことを示したいと思います。</p>		
<p>(15:45~ 16:45)</p>	履修認定試験		